2005 年度年次報告

2006 年度年次計画

2005 年度決算
2006 年度収支予算

◆ バングラデシュ　6

◆ ネパール　8

◆ インド　10

◆ クラフトリンク　12

◆ 国内活動　14

◆ 組織の充実　16

◆ 2005 年度決算と 2006 年度収支予算　22

特定非営利活動法人

シャプラニール

＝市民による海外協力の会

169-8611　東京都新宿区西早稲田2-3-1 早稲田奉仕園内
PHONE 03-3202-7863　Fax 03-3202-4593
E-mail info@shaplaneer.org
Website http://www.shaplaneer.org/

はじめに

シャプラニールの2005年度は、「ピリリと辛いやさしさ」を持ったNGOとして確実な歩みを進めることができた年であった、と感じています。

「愛・地球博」の「地球市民村」への出展については、賛否のご意見を頂戴しました。結局参加することにしましたが、その参加過程でシャプラニールは積極的に発言して、それなりに良いものにすることができたのではないか、と思っています。またバングラデシュのノクシカタを中心とした出展の準備や展示では、多くの会員やボランティアからご協力を頂きました。私たちにとっては数多くの人々との出会いの機会となり、バングラデシュの人々の豊かな文化を、より多くの人に伝えることができました。

こうしたクラフトリンクの活動では、皆様のご支援のおかげで、2005年度の売上げを04年度より増やすことができました。収支はもう少しバランスを取る必要がありますが、この活動の目的がバングラデシュやネパールの貧しい生産者の生活を支えることであるという視点から、多少の赤字が出ていることについてご理解頂きたいと思います。

ところで昨年10月8日、シャプラニールの評議員会が終わって数名の評議員と歓談をしている最中に、パキスタン大地震の知らせが飛び込んできました。早速パキスタンのNGO関係者と連絡を取り、数日のうちに信頼できる現地NGOとの関係を構築。こうして、皆様から寄せられたご寄付を役立てるができました。これは、ここ数年間南アジア全域とのネットワーク作りに励んでいたことの成果、と少々自負しています。また子島進会員には、現地での救援活動のモニタリングでお世話になりましたことを改めて報告いたします。

組織的には、いくつか大きな変化がありました。バングラデシュとネパールの事務所長がそれぞれ藤岡恵美子と藤﨑文子とになり、両事務所の所長が初めて女性になりました。一方家族を連れて数年ぶりに帰国した白幡利雄と小松豊明は、東京事務所で元気に仕事を続けています。

昨年度末に出版した「進化する国際協力NPO」については、執筆者はもとより、執筆対象になった方々のご協力やご理解に特に感謝しています。そのおかげで、これまでの35年間の歴史をこの一冊に収めることができたからです。なお87年の「鎌倉合宿」以降に本格化した組織化、97年末に起きたバングラデシュのストライキ事件、そして現地活動のパートナーシップ化などについては、特に詳細に記録しました。さらに、シャプラニールを支える様々な人や団体も、それなりに詳しく紹介することができました。

さて2006年度には、数年来の計画であったインドの協力活動を、現地NGOとパートナーシップの形態で小規模ながらも本格的に開始します。これによって「南アジアの貧困や社会問題に強いシャプラニール」というイメージが強化されることを期待しています。一方ネパールでの活動ですが、マオイストと称する武装政治集団の農村部での支配が強まり、特に外国のNGOにとっては活動しにくい状況なので、少々足踏みを余儀なくされています。

このこともあって、シャプラニール全体の財政の規模は、数年ぶりに少し縮小することを予定しています。この06年度、シャプラニールの執行部としては、今年度で終了する中期ビジョンに続くビジョンの策定に励むつもりです。またそのための前提として、中期的な執行部人事を考える年でもあります。NPO法人としてのシャプラニールの定款には、理事や代表理事の最長任期が6年間と定められており、私自身を含めた当初からの理事の任期の最終年度となるからです。

日本ではナショナリズムが一層強調されるようになりましたが、シャプラニールは地球市民のパートナーシップを一層強化し、グローバルな共生を目指す活動を今後とも続けていきます。2006年度のシャプラニールの歩みを一層確かなものにするために、会員の皆様の一層のご理解やご支援を心よりお願い申し上げます。

2006年6月　代表理事　大橋正明

2005 年度概観と 2006 年度に目指すもの

2005 年度概観

１．バングラデシュ

・農村での地域毎の課題への取り組みが本格化。
・都市で使用人として働く少女の支援を実施すべく実態調査を実施。

２．ネパール

・オカルドゥンガ郡での７カ年の農村開発活動が終了、次年度はフォローアップへ。
・治安悪化に伴う活動への支障が増す。

３．インド

・新規事業を現地 NGO と開始すべく調査を実施。

４．クラフトリンク

・魅力ある商品を開発するため、デザイナーを採用するなど注力した。
・ジュートエコレジバッグキャンペーンでエコ的な取り組みを初めて実施した。

５．国内・組織

・愛・地球博への出展で３万人以上にバングラデシュやノクシカタの魅力を伝えた。
・多くの協力者を得て、ステナイ生活の成果が前年比 160％となった。

2006 年度に目指すもの

１．バングラデシュ

・NGO や行政の支援が手薄なチョール（中州）地域へ活動を拡大。
・使用人として働く少女支援を開始。

２．ネパール

・農村部での新規事業の開始を目指した調査を実施。
・自然災害対策事業の策定作業を進める。

３．インド

・家政婦として働く女性への支援活動を開始。

４．クラフトリンク

・ステナイ生活の活動とのタイアップキャンペーンを実施し新たな顧客層を獲得する。
・ノクシカタをテーマにした「フェアトレード・キャラバン」を全国で実施。

５．国内・組織

・認定 NPO 法人を申請する。
・次期中期ビジョンを策定する。

各活動の概観

１．海外活動

「南アジアのシャプラニール」というキーワードがある。これは現行の中期ビジョン（2004 ～ 2006）の中で、海外活動の今後の方向性として真っ先に掲げられているものである。バングラデシュとネパールが専門というこれまでのイメージをさらに広げ、南アジアといえばシャプラニールと誰しもが想起する団体となるよう、自らを鼓舞するキャッチコピーとして考えられたものだ。そしてこの中期ビジョンが発効した年から 2005 年にかけて、バングラデシュでの大洪水、インド洋大津波、パキスタン大地震と、まさに南アジア全体を大きく巻き込む自然災害が相次ぎ、依然として根強い貧困の実態が図らずも白日のもとにさらされる結果となった。また一方、BRICs（経済発展の著しいブラジル、ロシア、インド、中国の頭文字をとった造語）の有力な一角としてインドが世界的に注目され、その動向がバングラデシュの経済にも大きな影響力を示し始めるなど、「駐在員をおき、現地の事情に明るい」というだけではなく、南アジア全体、ひいてはその位置づけを世界という大きな視点から見る努力が一層求められる状況になってきたといえる。ネパールで実質的なクーデターによる政変が起きたのも 2004 年度の末であったが、周辺諸国の情勢分析なしには今後の方向性すら見出せないことからも、それは自明であろう。

こうした中、シャプラニールは 2005 年度、着実に南アジアでの地歩を固めることができた。バングラデシュ、ネパールでは活動の不断の見直しによって、その支援がより必要とされている住民に届くようになり、それをきっかけにして生活向上に主体的に取り組む人々が増加した。またインドでは実際の活動開始にまでは至らなかったものの、具体的に取り組む課題と計画をまとめることができた。パキスタンでの救援活動を機に、新たなネットワークも広がった。「南アジアのシャプラニール」は、手の届くところにまできているのだ。

2006 年度は、その歩みをより確かにすると同時に、「南アジアのシャプラニール」が次に目指すものを具体化すべく、各種の評価や調査、そして議論を繰り広げていくことになる。また各パートナー団体が、市民社会組織として自主的かつ民主的な運営がなされているかどうかについても、これまで以上に注目していく。私たちが標榜する「当事者主体の問題解決」への大切な礎となるものだからだ。

２．クラフトリンク活動

2003 年の手工芸品活動指針策定後、これまで以上に現地手工芸品団体と一緒に生産者の仕事作りのために何ができるかを考え、商品開発能力向上のためのワークショップを開催するなどしてきた。その中で、改めて強く、日本での販路拡大をし、安定的な発注をかけていくことが現地生産者の仕事作りや南北問題への日本の人々への気づきにつながることを意識することとなり、2005 年度から商品開発方法の改善や新規顧客獲得に注力してきた。そして、うれしいことに世の中にフェアトレードという言葉が浸透してきており、買い物で気軽にできる海外協力は関心を呼んでいる。シャプラニールらしいフェアトレードを広めていくためにも、魅力的な商品を現地手工芸品団体と協力して開発し、販売促進につなげていきたい。

３．国内活動

国内活動は今、大きな変換期を迎えている。環境問題とフェアトレードを融合させてアピールした「ジュートエコレジバッグ・キャンペーン」や愛・地球博での出展、「ほっとけない世界のまずしさキャンペーン」への賛同など、これまでとは違った方法でシャプラニールの知名度を上げることができた。

また、タイミングよく広報することで新聞やラジオ・テレビ・雑誌などマスコミからの取材や取り上げられる頻度が増えた。おかげで、「ステナイ生活・BOOK」手工芸品の楽天市場でのウェブ通販へ新しく参加した人の数は飛躍的に増えている。特に企業や労働組合で取り組んでくださるケースが増えてきた。

これら一連の国内活動をシャプラニールでは広く市民への啓蒙活動あるいは開発教育と捉えている。今後も海外での活動との関連をうまく伝え、市民に共感を生む情報の出し方を検討していきたい。

一方ここ数年、地域連絡会や地域の NPO との協働にあまり取り組めていない。地域での問題と海外協力を結びつける試みは JICA の「市民社会支援プログラム」の教材作りを通じ、その手法や知見を蓄積しつつあるものの、具体的な協働例を作り上げるには至らず、地域連絡会や地域 NPO との意見交換なども今後の課題となっている。

バングラデシュ

2005 年度活動報告

すべての活動の主体が現地 NGO へ移行し、各団体がそれぞれのやり方で地域住民の参加促進や最貧困層への取り組み、行政との連携を進めたほか、各地域や対象となる人々の状況に応じた課題への対応が進んだ。

1. 農村活動部門

（1）現地 NGO としての認知向上と行政との連携強化
（イショルゴンジ郡 パートナー：COLI）

独立当初は困難もあったが、地域住民や行政、他の NGO からの認知と信頼を得ることに力を注いだ結果、現地 NGO としての知名度が着実に上がってきた。JICA（独立行政法人国際協力機構）と実施している草の根技術協力事業（パートナー型）の一環で、JICA 関係者および行政、ユニオン（行政村）の代表者らが多数参加した会議を現場で開催することもできた。活動面では、引き続き寡婦を含む最貧困層への取り組みに力を入れ、ユニオンや郡行政との連携強化に努めたほか、新規に貧困家庭の子どもの補習教室や働く子どもたちのための夜間教室を開始した。地域全体を対象にする村委員会については、複数の村で設置を進めているが、活発に機能するまでには至らなかった。

（2）将来ビジョン確立を目指し地域の問題を調査
（ギオール郡・ドウロトプール郡 パートナー：STEP）

少年少女グループは、地域の問題を自ら分析したり、2004 年の洪水で崩れた道や竹橋を修理するなど、積極的な活動を展開した。前年度新たに事務所を設置したドウロトプール郡では、最貧困層を対象としたグループや貯蓄ショミティなどの活動を順調に開始した他、これまで NGO や政府からの支援がほとんど届いていないチョール（中洲）に住む人々の実態調査を実施した。また他団体との関係強化を積極的に図るため、本部事務所をマニクゴンジ県の県庁所在地に置き、同地域で働く子どもたちの実態調査も実施した。

（3）財政基盤強化と障がい者支援活動の本格化
（ベラボー郡・ライプラ郡 パートナー：PAPRI）

前年度、専門の NGO で研修を受けたスタッフが中心となって始めた障がい者支援活動が本格化し、リハビリで機能を回復したり、治らないと思われていた口蓋裂を手術で克服する子どもが現れるなどの成果があがってきた。組織としては小規模融資（マイクロクレジット）で得られる利子収入をもとに財政基盤強化を着実に進めており、活動費全体の 3 割以上を自己資金で賄うまでになった。また、代表がノルシンディ県職員の研修講師に選ばれたり、識字教育活動が政府から表彰を受けるなど、活動地域内での地位をほぼ確立しつつある。COLI の少年少女グループの研修を受入れ、PAPRI の同グループとの交流も図ることができた。

2. 都市活動部門

（1）これまでの成果と課題を評価し、今後の活動内容を検討（ストリートチルドレン支援 パートナー：Aparajeyo-Bangladesh）

本年度は治安の問題があり、子どもたちの安全確保に神経を削った。子ども会議など、子どもたちが主体となって行う事業が定着し、演劇に才能を発揮する子どもも増えてきた。また「愛・地球博」でも紹介された子どもたちが古新聞で作る紙袋は、地域の店舗に卸すルートが確立され、年少の子どもがドロップイン・センター内で安全に収入を得られる作業として継続している。3 カ年計画の最終年度にあたり、評価作業を実施した他、日本人専門家を招へいしての 2 度目のスタッフ向けカウンセリング研修を 12 月に行った。

（2）都市問題への新たな取り組み

これまでの都市部での活動経験から、シャプラニールとして取り組むべき新たな課題として浮かんできた「使用人として働く少女」への支援活動を計画。11 月にダッカ市内の 3 つのスラムで実態調査を実施し、その結果をもとにした計画立案作業を進めた。調査を共同で実施した現地 NGO、フルキ（Phulki）をパートナー団体とし、次年度からの活動開始を決定した。

3. 調査評価部門

本年度が 3 カ年計画の最終年にあたっていた 2 つの活動（PAPRI、Aparajeyo との各事業）の評価を、各パートナー団体と共同で実施し、その評価結果に基づいて各団体と行う新たな 3 カ年計画を策定した。Aparajeyo との評価で浮かび上がった課題である「使用人として

◆チョール：デルタ地帯のバングラデシュには、チョールと呼ばれる中洲がポッダ川、メグナ川などたくさんの川に存在する。一口にチョールと言ってもさまざまで、雨期になると消滅してしまうものや 1～2 年前に新たに出来てまだ誰も定住していないものから、50 年以上も前から存在し、2 千人近い人口を有し、バザールと呼ばれる市場が存在するものまである。チョールに住む人々の生活は日本の離島に住む人々の感覚に近いものがあり、医療施設がなく何かあった場合は船で近くの街まで行かなければならないなど不便を強いられている。PAPRI が 2006 年度から活動を開始するチョールでの活動も、まずは住民にどのような活動が求められているのかを探るところからスタートする。

◆パートナー化：シャプラニールから独立した農村部の 3 つの NGO が、それぞれの地域で個性を発揮し始めている。1999 年に独立した PAPRI は地域のさまざまなニーズに対応していく団体として、障がいを持つ人々や乗り合いタクシーの助手として働く子どもたちへの支援活動などを実施。2002 年に独立した STEP では、少女グループが洪水の救援や池の清掃などのボランティア活動を積極的に行い、地域の高齢者に対する文化プログラムなども実施している。2005 年に独立した COLI は、地元の行政との連携を軸に団体としての基礎を固めている。地域の特性を生かした 3 団体のそれぞれの活動を、シャプラニールは側面から支援し、活動が安定するよう見守っていきたい。

働く少女」への支援活動は、女子への新たなアプローチとして別途検討を進めた。また、紅茶プランテーション労働者の生活実態を把握し、支援活動の可能性を探るための調査も実施した。

4. 災害対策部門

洪水等の災害が起きた際の対応をより敏速かつ効果的なものとするため、災害対策ユニットを設置した。しかし、具体的な初動マニュアルの作成は次年度へ持ち越しとなった。

5. 駐在員の交代

2005 年 7 月にダッカ事務所長の白幡利雄が、同 9 月に中森あゆみ駐在員がそれぞれ帰任した。それに伴い、5 月にダッカ事務所長として藤岡恵美子が、7 月に駐在員として小嶋淳史がそれぞれ赴任した。

2006 年度活動計画

国際 NGO として地元 NGO や政府による取り組みが不十分な地域や課題への選択と集中を図っていく。農村部では地方都市も含めた新しい地域への展開を新規に開始、住民を対象にした小規模な生活実態調査を行うほか、今後の方向性や新規事業の可能性を探るための調査も並行して進める。また都市部では「使用人として働く少女」への取り組みを新規に開始する。

1. 農村部での活動

（1）貧困層の生活向上支援

住民が、それぞれの経済状況に応じた適切な額を安心して貯金することができ、かつ少額の融資を受けられる機能をもつショミティの結成と育成は従来通り続けるが、その活動範囲は他の NGO や行政の支援が手薄な地域、特にチョール（中州）と呼ばれる場所への集中と拡大を進める。また社会的な差別を受けたり、経済的な理由によってショミティ活動から阻害されてしまうような最貧困層を対象にした個別の対応と、近隣ショミティへの参加の橋渡しにもさらに力を入れる。

（2）地域全体への支援

地域の有力者や行政機関との関係作りを進め、自然村、あるいは行政村単位での相互扶助機能を高めることで貧困層、とりわけ最貧困層が社会的に認知され、生活向上に取り組みやすい環境を整備するための諸活動を進める。具体的には、村人の有志による村委員会や行政との連携の模索を続けるほか、少年少女グループの規模をさらに拡大することで地域への浸透力を高める。また児童補習教育に対する地域の責任を明確にしつつ、より多くの住民の参加を求めていく。

（3）働く子どもたちへの支援

ストリートチルドレンとして、あるいは使用人などの労働の担い手として都市部へと出て行く子どもが多いことは周知の事実だが、農村部においても、地元の市場や郡、県の中心地の商店などで住み込んで働かされている子どもが多くいる。こうした働く子どもたちへの支援をさらに拡大して継続するが、特にこれまで活動をしていなかった地方中心都市への新規展開を行う。

2. 都市部での活動

（1）ストリートチルドレン支援

前年度に実施した活動評価の結果に基づき、子どもや若者のさらなる参加の促進に取り組む。また地域における「子どもの権利」意識向上を図るため、住民によるボランティアグループの結成を進めると同時に、バングラデシュ国内での支援者獲得を目指した諸活動を行う。また、農村部のパートナー団体との連携を視野に、新たなストリートチルドレンを生み出さないための取り組みの可能性も探る。

（2）使用人として働く少女支援

従来のストリートチルドレン支援活動ではカバーできておらず、深刻であるにも関わらず社会的な取り組みがほとんどなされていない問題である、「使用人として働く少女」への支援を開始する。先行事例がないため、まずは 2 カ年計画で開始し、本年度は少女たちの雇用者や親、地域住民への働きかけを中心に、将来にわたる活動の下地作りに努める。

（3）防災、ほか

バングラデシュ国内の災害対策や防災を専門とする NGO 等との関係強化を図るとともに、災害が発生した際、ダッカ事務所として迅速な対応ができるよう、初動マニュアルを整備する。また、イショルゴンジ郡において 1994 年と 99 年の 2 回にわたって実施した農村生活実態調査を引き継ぎ、住民の生活の変化を把握する小規模な調査を行うほか、農村部での今後の方向性や新しい活動の可能性を探るための調査を実施する。

◆ Phulki（フルキ）：困難な状況にある女性たちとその子どもたちの生活向上を目的に 1991 年に設立された NGO。織維工場で働く女性のための工場内託児所や、スラム内での託児・幼児教育などを通じて低所得層の働く女性たちを支援してきたほか、子どもたち自身が周囲の子どもに学んだことを伝えていく Child to Child アプローチによるスラムの衛生改善などを行っている。アドボカシーを重視し、企業にも積極的に働きかけた結果、ナイキ等バングラデシュ内に工場をもつ多国籍企業の多くが託児設備を設けることに同意した。代表をはじめスタッフのほとんどが女性。2006 年度からシャプラニールの新たなパートナーとして、使用人として働く少女のための事業を開始する。

◆バングラデシュの治安とスタディツアー：2005 年 8 月 17 日、バングラデシュ全土 64 県中 63 県の 450 カ所以上で同時多発的に爆弾事件が発生。2 名が死亡、約 140 名が負傷した。直後に予定されていた夏のスタディツアーは大事をとって中止。爆発現場からはイスラム過激派グループ、ジャマトゥル・ムジャヒディン（JMB）によるビラが発見され、その後数カ月間、各地で爆弾事件が頻発。一般教育と並行して存在するイスラム学校（マドラサ）出身の若者たちが動員されたことや、イスラム系 NGO の名でテロ組織が中東から資金を受けている疑いなどが指摘された。12 月以降首魁をはじめ JMB のリーダーが相次いで逮捕され状況が落ち着いたため、3 月にはツアーを再開した。

ネパール

2005 年度活動報告

オカルドゥンガ郡における農村開発活動が 7 カ年計画の最終年度となり、その総括および今後の方針を決定するための作業が行われた。また、働く子どもを対象とした最初の事業が本格化し、手探りながら着実に活動を進めた。この他、元カマイヤを対象とした経験交流プログラム、土地問題に関する活動など短期で新たな取組みを行った。

1. オカルドゥンガ郡農村開発活動

・パートナー団体：CSD

最終年度を迎え、住民参加型の評価活動や駐在員ほかによる現地モニタリングを通してこれまでの成果および現時点での課題を確認する作業が行われた。貯蓄融資、農業生産による収入向上、共有林の有効活用、インフラの整備、保健衛生関連事業など、各活動を通した対象住民の生活改善という所期の目的から見ると大きな成果を挙げたと言える。しかし現地から撤退後、住民自身による活動の継続を実現するために力を入れてきた住民組織の強化という面においては、課題を残した。

2. カトマンズ近郊都市貧困層自立支援活動

・パートナー団体：SOUP

2005 年 2 月から開始された新 3 カ年計画に基づく SOUP との活動では、女性グループの組織強化、収入向上活動の強化、およびグループ・メンバーの能力向上という 3 本柱が立てられている。このうちグループの組織強化においては最終的に貯蓄融資活動を行う協同組合としての登録を目指しており、それに向けたオリエンテーションやグループ運営研修の他、既存の女性協同組合への訪問研修などが実施された。

3. 働く子どもたちの状況改善活動

（1）働く子どもたち

・パートナー団体：CAPCRON

レストランや家庭内で働く子どもたち、乗り合いタクシーの呼び込みや路上で物品販売を行っている子どもたちなどを対象として、2004 年 12 月に活動が開始された。こうした働く子どもたちが置かれている困難な状況を緩和することが本活動の目的である。具体的には巡回健康診断、移動教室、法的支援、子どもの権利に関する啓蒙活動などを行っている。2005 年 12 月から 2006 年 1 月にかけて CAPCRON と JAFON のスタッフがインドおよびバングラデシュにおける視察研修に参加、様々な学びを得た。

（2）ストリートチルドレン支援

・パートナー団体：JAFON

鉄くずやプラスチックを拾い集める子どもなど、いわゆるストリートチルドレンを対象とし、夜間宿泊所、食堂、鉄くず買い取り所などを運営している。元ストリートチルドレンの青年が施設の運営を行い、子どもたちと親密な関係を築き子どもたちが安心して過ごせる空間を創出する。その中から子どもたちが自分たちの将来を肯定的に捉え、良い方向へ向かう手助けをする。活動を開始して一年、免許証を取得し運転手として自立したり、長期間の職業訓練施設へ入所し研修を続けたりするなど、路上生活を離れ新たな道を歩み始めたケースも出てきている。

4. 元カマイヤ支援／土地獲得支援

現在も政府からの土地配給を受けられずキャンプ地での生活を余儀なくされている元カマイヤ、およびそうした元カマイヤ自身によって作られた NGO を対象とし、かつてシャプラニールがバルディヤ郡における活動で対象としたカナラ運動の指導者たちとの経験交流プログラムを実施した。ダン郡にある NGO、SEED が参加者への呼びかけや会場確保など現地側での業務を行った。参加者にとって多くの学びがあった他、その後 NGO 間のコーディネーションが進展するといった効果も出ている。また、カマイヤを含め土地を持たない人々と共に土地獲得運動を進めている CSRC と民衆の声を反映した土地改革法案を作成する短期プロジェクトを開始した。土地改革作業を促進すべく政府へのプレッシャーを強めることが主な目的である。

◆歴史を変えた市民の力：1990 年の民主化運動を記念し、2006 年 4 月 6 日から大規模なゼネラルストライキが主要 7 政党によって計画された。中心となった要求は国会復活（2002 年 5 月に解散）と制憲議会の発足であった。盛り上がりを見せる抗議行動を抑えるため政府はカトマンズ市街地に連日外出禁止令を発出したが、市民集会参加者は日に日にその数を増していった。警官隊との衝突により多くの死傷者が出る中、学校や企業などは閉鎖を余儀なくされ、通常の商業活動もほとんど停止、一般市民は外出禁止令の合間の数時間に生活必需品を買い出し、また家に戻るという生活を余儀なくされた。翌日 200 万人規模の抗議デモを行うという発表を主要 7 政党が行った 4 月 24 日、ギャネンドラ国王が夜 11 時 30 分に国会の復活を宣言、事実上市民の声を受け入れる形となった。その後 4 月 28 日に国会が再開、5 月 1 日に制憲議会選挙の動議を前回一致で可決されている。一方、今回の運動に大きく関わったと言われるマオイスト（共産党毛沢東主義）は、国王に歩み寄ったとして当初主要 7 政党に対して激しい批判を行ったが、4 月 26 日には 3 カ月の停戦を宣言、それに応えて新政府も停戦に合意、今後マオイストと政府の和平交渉が進められる見通しである。一連の運動は政党でもマオイストでもなく、市民が中心となったという評価が多く、王室や政党の動きいかんでは再び市民が動きを見せる可能性も多分に残されており、注意深く行方を見守る必要がある。

5. 治安状況

2005 年 2 月 1 日の国王クーデターから一年が過ぎたが、全体として和平へ向けた大きな変化は見られない。マオイストとよばれる反政府勢力による治安側施設の襲撃や爆弾の爆破事件が多発し、一般市民が犠牲になるケースも少なくない。政府（王室）、マオイスト、政党という 3 者が絡み合い混迷の度は深まっている。2006 年 2 月には都市部のみであるが 7 年ぶりとなる選挙が実施されたが、これに伴いマオイストや政党側による反対行動が活発化、バンダやデモなどが繰り返された。選挙終了後も本年度末まで混乱は続いた。

6. 駐在員交代

小松豊明カトマンズ事務所長に継ぐ次期駐在員とし、藤﨑文子が 2 月に赴任した。小松は 2006 年 4 月末に帰国、藤﨑が後任の事務所長となる。

2006 年度活動計画

都市部における女性グループおよび働く子どもたちを対象とした活動をそれぞれ継続するほか、農村部では、これまでの住民組織への支援活動がフォローアップを残して終了したのを受け、新規事業の開始を目指した調査を進める。また、防災に関する取り組みも新たに開始する。

1. 農村部での活動

（1）住民組織の自立支援

これまで 7 カ年にわたって実施してきた活動は前年度をもって終了したが、住民自身による活動を確実なものとするため、本年度 1 年間に限ったフォローアップを実施する。マオイストによる影響も慎重に見極めつつ、具体的にはスタッフを 1 ～ 2 名配置し、各住民組織の活動をモニタリングするとともに、必要な助言等を行う。

2. 都市部での活動

（1）住民組織の自立支援

貯蓄融資活動を行う協同組合の育成を継続する。組合としての政府への登録作業は先方の都合によって停止したままであるが、間もなく再開される見通しであるため、それに向けた準備を着実に進めていく。

（2）働く子どもたちへの支援

これまでの活動の成果を評価・整理した結果、レストランで働く子どもと家庭内で使用人として働く子どもを優先対象と定め、さらに効果的な活動を目指して新たな取組みを展開していく。地域住民との連携を強めるための取り組みも引き続き行う。

（3）ストリートチルドレン支援

前年度に実施されたインドとバングラデシュへの視察研修の成果として、ストリートスクールの開始といった新たなアイデアが生まれてきている。こうした内容を取り入れながら、活動をより充実したものにしていく。またパートナー団体の資金獲得への努力に対する側面的支援も行う。

（4）防災、ほか

自然災害対策事業の策定作業を進めるとともに、ネパール国内における緊急救援活動が必要となった場合の初動体制の確立、およびカトマンズ事務所自身の安全対策を進める。

カマイヤの経験交流プログラムでのグループディスカッション。

◆マオイストからの要求：2005 年 11 月末、プロジェクトの視察のためオカルドゥンガ郡の現地事務所を訪れた際、地域担当のマオイストが「話がしたい」とやって来た。住民の組織化や住民による共有林管理などの活動は認められないこと、NGO はマオイストが組織する政府へ登録しなければならず、事業予算の数パーセントを税金として収める必要があると言う。登録や金銭の提供は受け容れ難い要求である。こうした申し入れは我々の活動地域に限らずネパール全土において行われており、NGO の頭を悩ませている。我々もこうした申し入れに対してどのように対応するかを定めたマニュアルを作成し、活動を続けてきた。こちらからはマオイストからの要求には応えられないことを伝えつつ、結論が出ないまま 4 時間半後マオイストは事務所を立ち去った。これを受け、一時ほとんどのスタッフをカトマンズに引き上げさせ、その後の対応を協議した。その過程で別のマオイストが現地事務所を訪れ、「そのような要求は今後行わない。活動をそのまま継続して問題ない」という趣旨の発言をしたことから、スタッフも現地へ戻り活動が再開された。ところが、しばらく経った 2006 年 3 月、最初のマオイストが再び現れ「前回の回答をもらっていない。結論を聞くまで事務所を閉鎖する」といって事務所に鍵をかけてしまった。そのため現地スタッフがさらに上級のマオイストに会い我々の活動内容についてよく説明をした結果、ようやく鍵が開けられた。

インドにおける新規事業

2005 年度活動報告

２005 年度中の活動開始を目標に、ダッカ事務所、カトマンズ事務所がそれぞれ、西ベンガルやビハール地方にある現地 NGO や国際機関などを訪れ、現地 NGO をパートナーとした取り組みの可能性を調査した。ダッカ事務所はコルカタで家政婦として働く女性への支援団体（Parichiti ／ポリチティ）と買春宿などから救出された少女たち（バングラデシュからもいる）を支援する団体（Sanlaap ／ションラープ）を候補として選び、少なくともどちらか一つとは次年度の早い時期に活動を開始できることを想定して協議を進めてきた。また以前から交流があり、ここ数年バングラデシュからの研修を受け入れてもらっている DRCSC をパートナーとした取り組みの可能性についても東京事務所で検討を行った。一方、カトマンズ事務所からはビハール州を中心に現地 NGO に関する情報収集を行ったものの、ネパール国内での新規事業の立ち上げを優先し、調査を一旦打ち切ることとした。

2006 年度活動計画

前年度に検討された家政婦への取り組みを開始する。まずは現状認識を地域の人々を巻き込む形で始め、女性たちの組織化、生活向上支援、ロビー活動などを行っていく。また、DRCSC との取り組みについては、先方からの提案を元に実現の可能性を探っていく他、人身売買や性的な搾取をされた少女たちへの支援については将来的な実施の可能性を念頭に置きつつ、さらに情報収集を進める。なお、インドでの活動について業務内容の共有と役割分担を明確にしていくため、ダッカ事務所・カトマンズ事務所・東京事務所、三者合同の調整会議を行い、南アジア全域を視野に入れた活動のあり方を検討する。

インド洋大津波被災者救援・復興活動

2004 年 12 月 26 日に起きたインド洋大津波に対し、同年度中にインドとスリランカにおいて多くの地元 NGO を通した救援・復興活動を行ったが、さらに 2005 年度を通して以下の 2 つの復興支援を実施した。

1. インド

日本の NGO、ソムニードと現地 NGO を通じてタミルナド州ナーガパッティナム県シルカリ郡にある 2 つの村で、計 369 世帯を対象とした回転資金の供与、ならびに資金運用のための研修を行った。その多くは漁師の世帯であったが、漁師に従属して生計をたてているアウトカースト（指定カースト）の 19 世帯も含まれ、いずれも有効に活用されたことが確認されている。

2. スリランカ

津波後の 2005 年 1 月に結成された地元 NGO のネットワークである CATAW を通して、722 世帯に対して生活を立て直すための資金を提供した他、被害にあった女性同士の交流研修を実施した。CATAW には 60 を超える女性団体や女性問題に取り組むネットワーク組織が参加しており、文字通り津波によって被災した女性（夫を亡くした人も多数含まれる）を幅広く支援することができた。

◆恩師からパートナーへ：DRCSC の創設者であるオルデンドゥ・S・チャタルジー氏は、シャプラニールの古くからの友人である。インドを訪問する際、個人的に知己を得る駐在員が多かったこともあるが、スタッフを対象とした研修の講師をしてもらったり、最近ではバングラデシュからの研修をすべて調整してもらうなど、実務面でも大変お世話になってきた。少し古いが、『シャプラニールの熱い風』第二部にもそのユニークな研修内容が紹介されている。最近では、宮崎あおいさんと将さんの写真集『たりないピース』の現地コーディネート役として登場している。恩師としての関係は変わらないが、これからはパートナーとして、さらに強固な関係を築いていくことになるだろう。

◆緊急救援も専門分野の一つに：これまで、シャプラニールは「緊急救援の専門団体ではありません」と言ってきた。それは「報道が集中し、耳目の集まりやすい大規模な自然災害だけが支援すべきものではない。私たちは、貧困にあえぐ人々を日常生活の視点から支えていくのだ」という問題意識を強調する手段でもあった。しかし現実には 90 年代以降、バングラデシュで 5 回、インドで 2 回、ネパールで 1 回、アフガニスタンで 1 回、スリランカで 1 回、そしてパキスタンで 1 回と、自然災害を中心に計 11 回もの緊急救援、復興支援活動を実施してきた。経験の蓄積も含め、「緊急救援」をシャプラニールの専門分野として位置づけるべき時期にきているといえるだろう。

パキスタン大地震被災者救援・復興活動

2005 年 10 月 8 日にパキスタンの北東部を襲った大地震に対し、緊急救援活動原則に基づいた活動を開始し、現地 NGO を通した救援ならびにその後の復興支援活動を実施した。被災直後から独自のネットワークを駆使した情報収集に努め、以前から親交のあった人物のいる現地 NGO、PNAC に対し、地震後 5 日目に即時送金を実施。9 日目にはスタッフを現地に派遣し、救援活動のモニタリングとさらなる支援活動についての調査、調整を行った。その結果、PNAC と ActionAid-Pakistan（以下、AA）に対し、追加の支援を決定。さらに厳しい冬期を迎えた現地からの要請に基づき、PNAC を通したシェルター（簡易住宅）の建設を復興支援活動として実施した。2006 年 3 月 31 日現在の支援結果は次のとおり。

1. 緊急救援活動

（1）第 1 次支援

カシミール地方ムザファラバード県カットケール村で、約 100 世帯を対象に約 1 カ月分の食料を配布（パートナー団体：PNAC）

（2）第 2 次支援

北西辺境州バタグラム県ラシャン村およびビヤリ村で、約 300 世帯を対象に防寒具や靴などの衣類を配布（パートナー団体：AA）。

2. 復興支援活動

カシミール地方ムザファラバード県カットケール村において、災害で夫を失った女性の世帯を中心に計 30 棟の仮設住宅を建設すること決定。2 月から作業を継続中（パートナー団体：PNAC）。

3. モニタリング

地震発生直後の 2005 年 10 月 17 日～ 23 日の日程で職員の藤﨑文子を現地に派遣し、緊急救援活動全般の情報収集とニーズの把握に努めた。また 2005 年 12 月 24 日～ 2006 年 1 月 5 日にかけて、パキスタン研究を専門とする子島進会員（東洋大学助教授）に依頼して救援活動を実施した被災地域を訪問してもらい、地域住民からの聞き取りなどのモニタリングを実施した。

■海外活動パートナー団体一覧

団体名	正式名称	活動地域	提携内容
バングラデシュ			
COLI	Community Organization for Livelihood Improvement	マイメンシン県	農村開発
STEP	Step Towards Empowerment of the Poor	マニクゴンジ県	農村開発
PAPRI	Poverty Alleviation through Participatory Rural Initiatives	ノルシンディ県	農村開発
Aparajeyo-Bangladesh	Aparajeyo-Bangladesh	ダッカ市	ストリートチルドレン支援
Phulki	Phulki	ダッカ市	働く子どもたちへの支援
ネパール			
CSD	Centre for Self- help Development	東部オカルドゥンガ郡	農村開発
SOUP	Society for Urban Poor	カトマンズ市とその近郊	都市開発
CAPCRON	Centre to Assist & Protect Child Rights of Nepal	パタン市	働く子どもたちへの支援
JAFON	Jagaran Forum Nepal	パタン市	ストリートチルドレン支援
SEED	Society for Environment Education Development	西部 5 郡	元カマイヤ支援
CSRC	Community Self Reliance Centre	全国各地	土地獲得支援
インド			
Parichiti	Parichiti	コルカタ市	ドメスティックワーカー支援
DRCSC	Development Reseach Communication and Services Centre	西ベンガル州	環境教育
ソムニード	特定非営利活動法人ソムニード	タミルナド州	津波被災者救援・復興支援
スリランカ			
CATAW	Coalition for Assisting Tsunami-Affected Women	被災地全域	津波被災者救援・復興支援
パキスタン			
PNAC	Pakistan National AIDS Consortium	カシミール地方	地震被災者救援・復興支援
Actionaid-Pakistan	Actionaid-Pakistan	バタグラム県	地震被災者救援・復興支援

クラフトリンク

2005 年度活動報告

1. 基本方針への取り組み

魅力的な商品で売上を伸ばし、現地に発注をかけるため、商品開発、発注関連主担当スタッフを置いた。また、2006 年春夏カタログに向け、商品デザイナーのアルバイト雇用、商品開発方法の変更を行った。また、事務局全体で取り組んだジュートエコレジバッグ・キャンペーンやホワイトバンド・キャンペーンおよび「愛・地球博」への出展により、メディアへの露出が増えた。これらの結果、売上は販売目標 6,300 万円に対し、6,000 万円（前年度比 116%）となった。

2. 商品開発の強化

商品デザイナーのアルバイトを 2005 年 6 月より採用し、2006 年春夏カタログ用に 83 点の新商品提案を現地手工芸品団体へ行った。その結果、2006 年春夏カタログの新商品点数は 56 点（2005 年春夏カタログ 48 点）となり、魅力的な商品展開を目指すことができた。顧客単価の上昇を目指し、商品単価の高い衣料品点数を増加させるなどした。また、新商品完成までに 2 度の改良期間を設けたことで、商品細部の改良を行うことができた。

3. 新規購入者の獲得

ジュートエコレジバッグ・キャンペーンの他、楽天市場（インターネット通販）でのホワイトバンド販売や「愛・地球博」出展を通じて、新規顧客数は前年度 1,169 人に対し 3,494 人となった。また、楽天市場のアフィリエイト（第三者による商品紹介システム）の利用促進をすすめるなどした結果、2006 年 3 月のアクセス数は 106,230 件と、2005 年同月比 69%増となり、楽天市場を通じての新規顧客数は全体の 60%に上っている。

4. ジュートエコレジバッグ・キャンペーンの実施

「レジ袋は、マズイ。」をキャッチフレーズにジュートバッグを使うことを呼びかけるキャンペーンを 6 月から実施した。ジュートバッグのデザイン募集に対しては国内外から 90 件を超える応募があり、うち 2 作品を商品化、2006 年春夏カタログより販売を開始した。レジバッグの年間販売数は 2,762 個と実に前年度比 525%となった。また、映画やテレビで活躍中の宮﨑将・あおい兄妹に生産現場訪問を訪ねてもらい、その模様を写真集にする企画は、当初のバングラデシュから政治状況悪化により、インド訪問へと変更した。なお、写真集は 2006 年度の発行となる。

5. 販売促進と対購入者サービス

2006 年 3 月にフェアトレード・キャラバン in 東京「バングラデシュの伝統刺しゅうと作り手の想い」を開催し、来場者 638 名、売上 138 万円の結果を得、ノクシカタ生産者の暮らしの変化やフェアトレードについて理解を深めてもらう機会となった。委託販売者向けのシャプラニールの活動とフェアトレードの生産現場を紹介するパネルを作成して貸出しを行い、また、売上でどのような現地生産者の暮らしが変化するかのレターを同封するなどを行った。卸先である常設販売者への電話掛けや、これまでよりも早い顧客対応と商品の発送を行った。

6. 手工芸品団体対応

（1）全般

出張時のワークショップは実施しなかったが、商品開発強化の一環として出張時に新商品開発のための調整時間を多く取ることで商品の完成度アップを目指した。また、インドでの取引開始に向け調査を行ったが、現時点では魅力ある商品を見出せず、今後の課題とした。バングラデシュ、ネパールでも新規取引団体を調査し、バングラデシュ 2 団体と取引を開始することとした。2003 年度からのアクションプランの評価では次の点が確認された。1）ワークショップの開催、また、商品の生産と輸出に関する密な連絡調整の維持により現地団体との関係を強化することができた。2）現地生産者の仕事作りのためには売れる商品の開発と販売強化がより一層重要である。

◆フェアトレード・キャラバン in 表参道：日頃カタログやインターネットでのみ商品を紹介している中で、実際に商品に触れていただき、現地の文化や生産者の暮らしをご紹介しているイベント。今年は、バングラデシュの伝統刺しゅう、ノクシカタをテーマとした。愛・地球博で展示した 2.5 × 4 mのタペストリーは多くの人々を魅了した。今年で7回目を数えるが、2006年2月に会場近くに表参道ヒルズがオープンし、付近を通りかかった方が来場されることが多かった。また、多くのボランティアの方が呼び込みを路上で行ったところ、以前よりも「フェアトレード」に反応して足を運んでくださる方も多く、フェアトレードの認知度の高まりを感じた。

◆商品開発：これまでボランティアの方の協力も得ながら、新商品を開発してきたが、残念ながらデザイナーなど商品開発に長けたスタッフはおらず、デザイン面、品質面で課題が多かった。そこで 2005 年度より、アルバイトではあるがデザインの技術を持つスタッフを採用したことで、パターンを引くなどが難しかったバッグや衣服の商品を以前よりも多く開発することが可能となった。また、製品になるまでの改良の機会を以前よりも多く設け、完成度の高い商品を作ろうとした。それらの成果が現れる商品は 2006 年度からになるので、今後も試行錯誤しつつより効果的な商品開発が必要になってくるだろう。

（2）バングラデシュ

アクションプランの一環としてシレイコンの商品開発及び生産管理を支援してきたが、その成果として本年度中に 4 商品を商品化した。一方、組織内での問題が発生していたポリスリーについては団体との取引は休止となった。また新規団体としてサリー・アン（Sally Ann）との取引開始に向けた関係作り、そして 10 数年ぶりに商品取引を復活するプロボルトナ（Prabartana）へのサンプル製作依頼を開始した。

（3）ネパール

商品の売買だけではない新たな取り組みとして 2004 年度から開始したタルー・アップリケ生産グループを対象としたミシンの縫製研修の支援事業は本年度が最終となり、評価作業を行う予定。生産者の技術向上は果たされたものの、商品開発や市場拡大という面で今後も継続的な取り組みが必要と考えられている。また、これまでに取り扱っていないような商品を生産している新規団体との取引を念頭に調査を行ったが、取引の開始にまでは至らなかった。

2006 年度活動計画

1. 基本方針

本年度も現地生産者の生活向上を第一に、現地の状況やフェアトレードの意義をひろく伝えるクラフトリンクの活動を、より多くの市民からの協力を得て進めていく。現地生産者に継続した発注を行うため、またシャプラニールの活動資金安定のために売上目標を堅持していく。ステナイ生活と連携するキャンペーンでエコレジバッグを販売促進し、新たな顧客層の開拓を目指す。また、季節に合った販売促進企画や特集の実施等により売上を確保する。

2. 通信販売と楽天市場における販売の強化

カタログのページ増、フェアトレードや商品情報を充実させる。また、楽天市場のサイトや企画の充実を図る。商品お届け日数の短縮や配送方法の改善により、顧客満足度を高める。企業とのタイアップ商品販売を楽天市場で行う。また、セールや時期に合った企画でカタログ外商品の販売を積極的に行う。その一方で、委託販売では委託期間の短縮を実施するなど適正在庫確保を目標にする。

3. ステナイ生活キャンペーンの実施による新規顧客獲得

2007 年度春に実施予定のレジ袋有料化に向け、「ステナイ生活」の一環としてマイバッグ使用を呼びかけ、ジュートエコバッグの販売促進およびエコに関心のある新たな顧客層の開拓を行う。また、カタログ発行時期だけでなく、キャンペーンや季節に合わせた商品をマスメディアに取り上げてもらえるよう、広報を強化する。

4. 商品開発強化の継続

商品単価アップのため衣服の割合を維持しつつ、楽天市場の顧客層に合った商品展開にも留意しながら、引き続き商品開発に力を入れる。

5. 販売促進

5 ～ 7 月に全国 4 カ所でノクシカタをテーマにした展示販売会「フェアトレード・キャラバン」を実施する。また、ノクシカタをテーマにし、フェアトレードの意義を伝えるブックレットを発行する。楽天市場を中心にクリスマスやバレンタインなど季節商品の販売促進を強化する。

6. 手工芸品団体対応

2006 年秋冬カタログでの紹介を目途にバングラデシュの新規団体との取引を開始する。既存団体へは現地事務所と協力しながら、商品開発、発注を通じて団体育成を支援する。次期アクションプランに基づき、本年度重点を置くアイテムを生産する手工芸品団体との連携を図る。

「フェアトレード×エコ」商品として反響のあった、ジュートエコレジバッグ。

◆エコレジバッグ・キャンペーン：「レジ袋はマズイ。」をキャッチコピーに、マイバッグを買い物に持っていくことを呼びかけるキャンペーンを行った。提案した「エコレジバッグ」は 2,700 個を超える売り上げを達成した。このレジバッグは、バングラデシュの特産品であるジュート（黄麻）を使って、現地の女性が 1 つずつ手作りしたもの。ジュートは地中に埋めるとバクテリアによって分解され、土に還るという自然環境にやさしいエコ素材となっている。このフェアトレード×エコという考え方が多くの方に受け入れられたことと、多くの方がレジ袋をもらわない暮らしに共感し始めていることがエコレジバッグの売り上げの伸びに表れている。

◆楽天市場：2004 年にオープンした、楽天市場上のシャプラニールのフェアトレードショップ「クラフトリンク南風」の売り上げは、これまでの最高を記録した。これは、フェアトレードの認知度にも大きくかかわっている。インターネットで探し当てたい商品や情報を検索するためには、関連するキーワードを入力することになる。以前は「ペンケース」や「バッグ」など商品の単語を入力してくださるお客様が多かったが、最近では「フェアトレード」を入力している方が圧倒的に増えている。今後楽天市場でフェアトレードショップと言えば「クラフトリンク南風」と言われるよう、ますます、内容の充実を図っていき、多くの方にフェアトレード商品を利用してもらえるようにしたい。

国内活動

2005 年度活動報告

1. ささえる（現地を支援するための活動）

・企業、労働組合との協働は、エコレジバッグ・キャンペーンや社員ボランティアの受け入れ、社内でのチャリティバザーへの参加、パキスタン地震への寄付など本年度も進んだ（付表参照）。特にパキスタン地震へ多くの寄付協力があったが、今後緊急救援以外でも協力関係を築けるよう働きかけをしていく必要がある。
・寄付が現地の人々に役に立っているのかを伝えるために、寄付額に応じ、どんな支援が可能になるのか具体例を出す工夫をした。また、年 2 回の季節募金では、前年度を超える協力を得ることができた。
・基金については、「ダッカ・子どもの夢基金」を「子どもの夢基金」とし、ネパールの子ども支援プロジェクトを含む基金に改定した。改めて支援を呼びかけたところ継続とは別に、全体で 108 口、新規 80 口（約 302 万円）の支援を得ることができた。
・書き損じはがきを中心としたステナイ生活、古本を集めるステナイ BOOK ともに支援者拡大に注力した結果、前年比 2.5 倍の新規支援者を得られた。ステナイ BOOK は、広報リリースが功を奏し、多数の新聞で取り上げられ、年末年始だけで 300 万円を超え、寄付が前年比 5 倍の結果となった。また、個人だけでなく、新たに労働組合による全国レベルでの支援も得ることができた。
・これまでに制作した小学生向けの教材（ビデオ、パネルなど）を集約し、活用することは次年度持ち越しとなったが、「愛・地球博」で作成したクラフト関連の展示物を春に開催する「クラフトフェア」に活用し、「フェアトレード・キャラバン」と名称を変え、次年度に地域展開を意図した展示会を実施する。

2. つたえる（現地の活動の視点から発信する）

・ノクシカタや音楽など、バングラデシュの豊かな文化を紹介することをメインテーマに、8 月の 1 カ月間、愛・地球博の「地球市民村」に出展した。出展パビリオンには、3 万人以上が来場し、バングラデシュの伝統的な刺しゅうであるノクシカタの紹介や現地から楽団を招聘しての演奏会など、バングラデシュの豊かさに触れてもらい、シャプラニールの活動を知ってもらうことができた。なお、実施に当たっては 100 人近いボランティアが企画・当日運営に携わった。
・バングラデシュから帰任した白幡事務所長の帰国報告会を 10 月に全国 20 カ所で行い、現場での体験やそこから見えてくる提言などを発信した。また、中森駐在員の帰国報告会を 2 月に開催し、フェアトレード・キャラバンでの講演を 3 月から次年度 7 月にかけて各地で開催する。
・主に 1980 年代後半から現在までの活動を綴った「進化する国際協力 NPO －アジア・市民・エンパワーメント－」を明石書店から出版した。
・会報「南の風」を隔月年 6 回、オピニオン誌「もうひとつの南の風」は年 2 回発行し、プロジェクトの詳細を会員に伝えた。
・ニュースのリリース先を整理し、イベントやキャンペーンの告知を丁寧に行った結果、新聞（62 回）、雑誌（19 回）、書籍（5 回）、テレビ・ラジオ（5 回）とかなりの頻度で取り上げられ、シャプラニールを知ってもらう機会が増え、広報効果が上がった。
・インターネットはページの構成を見直し、活動情報と参加方法を分かりやすくした。またウェブページ制作のアルバイトを採用し、楽天市場の運営に力を入れた。また他サイトと協働しパキスタン地震救援活動の募金キャンペーンを行った。
・ユースグループは 8 月に 8 回目となる「中高生のためのユース・フォーラム」を実施した。3 月に東京でチャリティコンサートを開催した他、8 月にはバングラデシュで現地 NGO エクマットラ主催のコンサート企画に協力した。中学生・高校生によるグループ「アステ」の活動が開始され継続している。この他、グローバルフェスタ 2005 の出展などに協力した。
・開発教育では、これまでに制作した教材の販売、貸し出しを継続した。また、首都圏を訪れる修学旅行生の受け入れは、18 校を受け入れた。

3. といなおす（日本のあり方を考える）

・地域での活動は、今年度新たに大阪に「シャプラニール地域連絡会大阪」が誕生した一方、長崎と常総の連

◆ステナイ生活・BOOK：ハガキや古本など日常生活で不用となった物品をリサイクル＆リユースし、活動資金として活用する海外協力活動。現在の大量消費社会のあり方を考える視点も加味し、「ステナイ生活」と命名。2003 年より中古書店（株）ブックオフコーポレーションの協力を得て、送料無料で古本や CD、DVD、ゲームソフトを寄付する「ステナイ BOOK」も開始した。2005 年度は、会報や手工芸品カタログ発送時の封筒裏面を活用した「リユース封筒」の登場、また全国紙や書籍でも紹介された結果、支援者数が前年比 1.8 倍に増え、寄付総額も初の 1 千万円台へと躍進した。さらに、全国に支部をもつ労働組合を中心に、全国的な支援展開も普及している。

◆フェアトレード・キャラバン：「愛・地球博」のブース展開と、中森前駐在員の全国キャラバン、それに毎年行われてきたクラフトフェアを合体させ、札幌・新潟・大阪・静岡・名古屋・那覇の 6 カ所を 5 月から 7 月にかけて回る。地域での受け入れは、地域連絡会や手工芸品の常設店、NPO と様々。バングラデシュの刺しゅう「ノクシカタ」をテーマに、生産者の横顔に焦点を当てたパネルや刺しゅうの製作過程がわかる展示などの他、実際にノクシカタを作ってみるワークショップ、講演会やファッションショー、寸劇など盛りだくさんのイベントになっている。テーマにあわせたブックレットも制作し、今後はイベントまるごと地域展開を目指す。

絡会が活動を休止し、現在 30 の地域連絡会が活動中である。また、今後の地域連絡会のあり方について、また国内活動についてどう考えていくのかについて理事会で議論し、次年度策定の中期ビジョンに向けて提言を出すタスクフォースを立ち上げることとした。
・シャプラニールの講座としてこれまでの「ボランティア入門講座」に加え、活動のより詳細な内容を伝える「もっと知りたいシャプラニール」をそれぞれ 12 回と 6 回行った。今年は、例年に比べ広報などの周知ができたせいもあり、参加者が多かった。
・早稲田、高田馬場地区の地域通貨「アトム通貨」の実行委員として参加し、また、通貨加盟店としてクラフトリンクやステナイ生活を通しての通貨の流通に関わった。これを機に商店街や大学など地域との交流や協働を行うことができた。
・夏に予定されていたスタディツアーは出発間際にバングラデシュの政情不安のため中止し、年度末に 2 年ぶりにバングラデシュへのツアーを再開した。
・エコレジバッグ・キャンペーンやステナイ生活を通して日本の大量消費社会を問い直す活動を行った。また、NGO 連合体と企業との協働による「ほっとけない世界のまずしさ」キャンペーンには賛同団体としてかかわり、ホワイトバンドの紹介などを通じて世界の貧困問題の啓発に努めた。

2006 年度活動計画

1. ささえる（現地を支援するための活動）

・ステナイ生活では、「ささえる」という目的に加え、新たに大量消費社会のあり方をといなおす「ライフスタイル提案型」のアクションとして露出させ、団体・企業を含む新規支援者層の獲得を目指す。その一環として、クラフトリンクとの協働キャンペーンを実施する。
・寄付、基金については、既存の支援者から継続して支援を続けてもらえるよう、支援に対する「成果が実感できる」工夫をしていく。
・企業・団体との協働については、必要な支援・協力内容をまとめ、成果に結び付けられるような体制をつくっていく。

2. つたえる（現地の活動の視点から発信する）

・シャプラニールの統一したイメージを作るために、ブランド管理を徹底していく。
・前年度の新聞・雑誌への記事掲載率の高さを保持し、本年度も適切なタイミングでリリースするなど、より積極的な広報を目指す。
・活動をわかりやすく伝えるために、プロジェクト別紹介ペーパーを作成するなど、シャプラニールの「今」を伝えていくことを意識して、活動の整理と明確化を行う。
・前年度に取材を行った宮﨑将・あおい兄妹によるインドのクラフト生産現場とストリートチルドレンの訪問の模様を写真集「たりないピース」として 5 月に発行する。
・ユースグループは最終回であるとの認識のもと、9 回目の「中高生のためのユース・フォーラム」を 8 月に行う。独自性、自発性を伴った旺盛な取り組み姿勢を維持しつつ活動のあり方を再検討することも試みる。報告会、宿泊型研修会、コンサートなどの中から複数の企画を実施する方向で積極的に活動を展開する。

3. といなおす（日本のあり方を考える）

・日本社会でのシャプラニールの役割を明確化し、次期中期ビジョン策定に向けてシャプラニールの国内活動のビジョンを策定していく。その過程である本年度は「クラフトリンク＋ステナイ生活」をキーワードに、国内活動を組み立てていく。
・いままで国内で行ってきた数々の企画や情報などの洗い出しとまとめを行い、素材・経験の蓄積をしていく。シャプラニールの活動を広く一般の人に使ってもらえ、活動を伝えるツールとなるような形にしていくことを目的とする。
・中森駐在員の帰任報告と 2005 年実施の「愛・地球博」で作成したクラフト紹介の展示品を利用し、当会の行うフェアトレードの意味を伝え、地域での支援者拡大を目指したフェアトレード・キャラバンを全国 6 カ所で実施する。
・春に帰任する小松駐在員の帰国に合わせて、秋（9 ～ 10 月）に全国をまわる講演会を実施する。
・開発教育に関しては、既存教材の貸し出しおよび販売はこれまで通り行う。
・スタディツアーは、治安状況を鑑み、年に 2 ～ 3 回実施する。

◆愛・地球博：出展するべきか否か。2 年前には内部でいろいろ議論した。万博そのものに対する賛否もさることながら、事務局スタッフが他の業務との間で切り盛りできるのかという視点でも現実問題として厳しい意見が出された。主催側からは約 1 年半にわたり、出展コンセプトからワークショップの方法、来場者への対応まで細かく指導があった。担当者は「バングラデシュやそこに住む人たちの豊かさ」を日本に住む人たちにどう伝えようか悩み、バングラデシュの刺しゅう「ノクシカタ」を題材に現物と写真を使って何とか来場者の足を止め、お話ししたいと考えた。結果、3,000 人以上の方がメッセージを残し、クラフトも 400 万円を超える販売への協力があった。何よりの収穫は 100 人にも及ぶボランティアの方々との出会いであった。真夏の過酷な環境の中、とても気持ちよく仕事していただいたことに本当に感謝したい。また、パビリオンを作り上げる過程で、いかに短時間にインパクトを与える展示ができるかについて、多くを学んだ。これは、今後の広報活動や国内活動にずいぶん役立つだろう。パビリオンで一番目に付いたのは、バングラデシュのカラフルな「リキシャ」だったが、現在は JICA 広尾センター（地球ひろば）の入り口で第二の人生（？）を送っている。万博に来られなかった人も是非こちらに見に来ていただきたい。なお、他にも地球ひろばにはバングラデシュのショミティの議事録や成人識字学級の教科書なども展示されている。

組織の充実

2005 年度活動報告

1. 市民の参画

「クラフトリンク活動の拡大」を最優先課題とし、エコレジバッグ・キャンペーンの展開の中でエコ的な視点を持つ手工芸品をたくさんの市民に購入していただいたほか、「愛・地球博」では 100 名を超えるボランティアの参加を得たり、ステナイ生活においても前年度をはるかに超える協力者を得るなど、数多くの市民の参画を得るような機会をつくることができた。一方、特に地域連絡会をはじめとする地域に根ざした市民のかかわりをどうしていくのかについて理事会で審議し、次年度にタスクフォースを立ち上げて中期ビジョンにつなげるような提言を行うこととした。

2. 執行部

理事会は、定足数が不足した一回をのぞき、10 回を開催、評議員会は秋と春に 2 回を実施した。年次計画策定に当たっては理事会・事務局合同会議を開いて課題の抽出を行うなどした。また、認定 NPO 法人取得に向けて議論を重ね、次年度取得を目途として準備を始めた。

3. 支援者拡大に向けて

支援者の拡大を目指して、マンスリーサポーターキャンペーンを秋に実施、164 名のサポーターが新たに加わった。2005 年度末でマンスリーサポーターは 792 名となった。

4. 市民社会組織としての貢献(知的貢献部門)

・前年度に引き続き、JICA「市民社会支援プログラム」を「いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク」「ローカルジャンクション 21」という市民活動団体の協力のもとに継続し、前年度研修生のフォローアップや研修内容の新規作成、実際の研修の受入を行った。
・庭野平和財団の南アジア助成プログラムへの協力を継続した。
・JICA 草の根技術協力事業として、バングラデシュ、ネパール双方での協働事業を継続した。なお、ネパールにおけるオカルドゥンガの事業は本年度を以って終了した。また、JICA のバングラデシュにおける PRDP（行政と住民のエンパワーメントを通じた参加型農村開発プロジェクト）に国内支援委員を派遣した。
・中央共同募金会の改革を行う企画推進委員会の専門部会に委員を派遣した。
・学校や中間支援組織などにおける講演・ワークショップの講師派遣を 37 回行った。

2006 年度活動計画

1. 市民の参画

「市民による海外協力」の更なる充実を目指し、本年度はクラフトリンクとステナイ生活という日本社会に向けてのメッセージ性を持った二つの活動を融合させた形でのキャンペーンを展開し、多くの市民の参画を促していく。

2. 認定 NPO 法人申請・国連登録 NGO についての調査

2006 年 4 月に改正された認定 NPO 法人制度の内容をよく吟味し、本年度中には申請を行う。また、中期ビジョンにも謳っている国際連合登録の NGO についてそのメリットデメリットを調査し、取得の是非について検討する。

3. 支援者拡大に向けて

順調な伸びをみせているマンスリーサポーターに加え、会員を増やす試みも実施する。春には会員、秋にはマンスリーサポーターキャンペーンを行うことで、両者の拡大に努めていく。

4. 次期中期ビジョンの策定

本年度は現行の中期ビジョンの最終年に当たる。ビジョン達成の評価を行いつつ、次期中期ビジョンの策

◆ホワイトバンド：これまで NGO の活動は、災害時の緊急救援活動以外、一般からそれほど大きく注目されることは少なかったが、2005 年はたくさんの有名人が協力したこともあってか「ほっとけない世界のまずしさ」キャンペーンが「ホワイトバンド」によって全国的に有名となり、NGO の活動がテレビを通してお茶の間にも登場するようになった。このキャンペーンは元々、世界的な NGO キャンペーンである GCAP（Global Call to Action Against Poverty）の一環として展開されているもので、ホワイトバンドを売って途上国を支援するチャリティというよりは、貧困問題の解消に向けて、各国政府に対し、市民サイドから具体的な政策提言を行っていこうという運動だった。一般に日本社会ではなかなかこの政策提言（アドボカシー）が理解されず、大きなうねりとなることが少なかったが、今回は「ホワイトバンド」の勢いもあってか、多くの日本人が知るところとなった。シャプラニールもこのキャンペーンに賛同団体として、また、組織運営の部分で協力した。楽天市場や 8 月の愛・地球博で「ホワイトバンド」を販売していたのがシャプラニールだけだったためか、年間で 7000 個以上を売り上げた。最初は「有名人がホワイトバンドをつけているから」で始まったキャンペーンへの関心も、これがきっかけで NGO の活動や世界の貧困問題へと関心が広がっていった人も多かったと聞く。きっかけは何でもいいではないだろうか。。

定を行う。なお、策定に当たっては会員の幅広い声を反映できるような仕組みを作る。

5. 35 周年記念事業の企画

シャプラニールは 2007 年に 35 周年を迎える。次年度に向けて記念事業の企画を開始する。

6. 市民社会組織としての貢献(知的貢献部門)

・2005 年度に引き続き、JICA「市民社会支援プログラム」への協力を行う。
・庭野平和財団の南アジア助成プログラムへの協力を継続する。
・JICA 草の根技術協力事業として、バングラデシュでの協働事業を継続するほか、新規での協働事業を検討する。また、JICA のバングラデシュにおける PRDP（行政と住民のエンパワーメントを通じた参加型農村開発プロジェクト）に引き続き国内支援委員を派遣する。
・中央共同募金会の改革を行う企画推進委員会の専門部会に引き続き委員を派遣する。

100 名近くのボランティアの協力を得て、愛・地球博「地球市民村」に 1 カ月間出展をした（2005 年 8 月）。

付表

■ 2005 年度国内年間カレンダー
4 ～ 12 月　ジュートエコレジバッグ・キャンペーン
4 月 23 日　評議員会
6 月 25 日　会員総会
8 月 1 ～ 31 日　愛・地球博「地球市民村」出展
8 月 4 ～ 7 日　中学生高校生のためのユース・フォーラム 2005
10 月 8 日　評議員会
10 ～ 11 月　マンスリーサポーターキャンペーン 2005
10 ～ 11 月　白幡駐在員帰国報告会
2 月 25 日　中森駐在員帰国報告会
3 月 3 ～ 5 日　フェアトレード･キャラバン in 東京
3 月 18 ～ 26 日　スタディツアー（バングラデシュ）

■ 2006 年度国内年間カレンダー（予定）
4 ～ 5 月　会員入会キャンペーン
4 月 22 日　評議員会
5 ～ 7 月　フェアトレード・キャラバン（大阪、北海道、新潟、静岡、名古屋、沖縄）
5 月 21 日　ユースグループ主催講演会
6 月 24 日　会員総会
8 月 3 ～ 6 日　中学生高校生のためのユース・フォーラム 2006
8 月 11 ～ 20 日　スタディツアー（バングラデシュ）
9 月 30 日　評議員会
10 ～ 12 月　マンスリーサポーターキャンペーン 2006
10 ～ 11 月　小松駐在員帰国報告会
12 月　　スタディツアー
3 月　　スタディツアー

■各地域連絡会の主な活動
○シャプラニール秋田グループ
・手工芸品販売
○シャプラニールいわき連絡会
・手工芸品販売
○シャプラニール仙台ボンドゥの会
・白幡帰国報告会（講演会）（2005.11）：仙台市市民活動サポートセンター
・写真展と活動報告（NTT 労組・児童労働撲滅キャンペーン参加）（2005.06）：エルパーク仙台
・仙台国際センターまつり出展（カレー試食・手工芸品販売）（2005.09）：仙台国際センター
・仙台産国際協力おためしパック出展（活動紹介・手工芸品販売）（2005.11）
○シャプラニールとちぎ架け橋の会
・フェスタ my 宇都宮（手工芸品販売、サリー着付け、フリーマーケット）（2005.04）：宇都宮市マロニエプラザ
・松が峰教会バザー（手工芸品販売）（2005.05）：カトリック松が峰教会
・総合学習 6 年生（ワークショップ・お話）（2005.07、2005.11）：宇都宮市立戸祭小学校
・NPO 法人フリースペース企画（ワークショップ）（2005.07）：報徳今市振興会館
・宇都宮市民活動サポートセンターまつり（手工芸品販売）（2005.10）：宇都宮市東コミュニティーセンター
・とちぎインターナショナルフェスティバル（ワークショップ、手工芸品販売、サリー着付け）（2005.10）：栃木県子ども総合科学館
・つどい・地球の仲間たち 2005（講演会、写真展）（2005.10）：宇都宮大学
・宇都宮大学学園祭（手工芸品販売、チャイ販売、フリーマーケット）（2005.11）：宇都宮大学
・町立フリースペース「ひよこの家」プログラム（ワークショップ）（2005.12）：高根沢町「ひよこの家」
・ニューイヤーズパーティ（中森駐在員帰国報告講演、会食）（2006.01）：とちぎ国際交流センター
その他：通信発行（年 4 回）、定例会（月 1 回）、勉強会（月 1 回）、宇都宮大学学生サークル「KAKEHASEEDS」活動（週 1 回）、募金協力など
○シャプラニール地域連絡会むさしの
・手工芸品販売
○シャプラニール町田架け橋の会
・野津田の丘の秋まつり（手工芸品販売・宣伝）（2005.11）：町田市野津田公園
・町田市立版画美術館ゆうゆうまつり（パンと手工芸品販売・宣伝）（2005.10）：町田市立版画美術館前広場
・国際ボランティアまつり“夢広場”参加（パンと手工芸品販売・宣伝）（2005.11）：町田市ぽっぽ町田広場
その他：手工芸品常設店「小麦の家」にて夏と冬に手工芸品セールを行う。
○シャプラニール甲府アミ・バロの会
・手工芸品販売
○シャプラニール金沢連絡会
・手工芸品販売
・白幡帰国報告会（2005.11）：石川県 NPO 活動支援センター
○シャプラニール地域連絡会大阪
・ワークショップ（ノクシカタとフェアトレード）（2005.10）：大阪市西区堀江
・出張講演（ダッカのストリートチルドレン）（2005.11）：高槻市立阿武山中学校
・白幡帰国報告会（講演会）（2005.11）：大阪府立茨木高等学校
・手工芸品販売

○シャプラニール兵庫連絡会
・手工芸品販売
・白幡帰国報告会（2005.11）：西宮市男女共同参画センター
○シャプラニール南大阪
・白幡帰国報告会（2005.11）：精華小学校
○シャプラニール奈良連絡会
・白幡帰国報告会（2005.11）：精華小学校
○シャプラニールせっつ生活わくわく広場
・白幡帰国報告会（2005.11）：精華小学校
○シャプラニール京都
・秋の集い（ミニコンサート＆白幡帰国報告会、手工芸品と写真展の開催）（2005.11）：京田辺市商工会館
○シャプラニール中津連絡会
・出張授業（フェアトレードについて）（2005.05）：中津市立豊田小学校
・白幡帰国報告会（講演会）（2005.10）：南部公民館および中津市立豊田小学校

■助成団体・ODA 関連一覧
財団法人 2005 年日本国際博覧会協会：日本・愛・地球博
財団法人国際開発救援財団（FIDR）：バングラデシュ・農村開発
財団法人地球市民財団：パキスタン地震
財団法人トヨタ財団：南アジア・調査研究
財団法人新潟県国際交流協会：バングラデシュ・保健衛生
財団法人庭野平和財団：バングラデシュ・農村開発
社団法人国際農林業協力・交流協会（JAICAF）：ネパール・交流研修
財団法人茨城県国際交流協会：パキスタン地震
東京都：ネパール・ストリートチルドレン
特定非営利活動法人 WE21 ジャパン：バングラデシュ・少年少女グループ
独立行政法人国際協力機構（JICA）：バングラデシュ／ネパール・農村開発
特定非営利活動法人ニッポン・ボランティア・サポート（NVS）：バングラデシュ・NVS 高校
日本郵政公社ボランティア貯金：バングラデシュ・ストリートチルドレン
日本労働組合総連合会（連合）愛のカンパ：バングラデシュ・農村開発
モラロジー国際救援運動推進委員会（MIRC）：バングラデシュ・ストリートチルドレン
UI ゼンセン同盟：バングラデシュ・児童教育

■企業・団体との協働一覧
【企業】
○寄付
・味の素株式会社（パキスタン地震）
・株式会社損害保険ジャパンちきゅうくらぶ（パキスタン地震）
・ノースウエスト航空会社（エアケアー・チャリティ・プログラム）
・株式会社まるやま（子どもの夢基金）
・株式会社三井住友銀行（いきいきむら基金 4 年継続）
○ステナイ生活への協力
・住友生命保険相互会社
・株式会社損害保険ジャパンちきゅうくらぶ
・東京海上日動火災株式会社
・日産自動車株式会社
・日本航空株式会社
・日本ユニシス株式会社
・株式会社ハローズ
・株式会社日立製作所
・三菱商事株式会社
・三菱地所株式会社
・リクルート株式会社ケイコとマナブ編集部
○クラフトリンクへの協力
・株式会社損害保険ジャパンちきゅうくらぶ（フェアトレード・キャラバン東京企画協賛、社内イベントでの販売）
・東京海上日動火災株式会社（クリスマスバザー）
・日本電気株式会社（NEC）（フェアトレード・キャラバン東京企画協賛）
・株式会社日立製作所（社内イベントでの販売）
・松下電器産業株式会社（フェアトレード・キャラバン東京企画協賛）
・三菱商事株式会社（クリスマスバザー）
・ミナト印刷紙工株式会社（フェアトレード・キャラバン東京企画協賛）
○その他
・オムロン株式会社（創立記念日の社員ボランティア受け入れ）
・株式会社サイバーエージェント（パキスタン地震緊急救援の広報協力）
・日産自動車株式会社（NPO ラーニング奨学生受け入れ）
・株式会社日立製作所（本社ボランティア講座にて講師）
【団体】
○寄付
・クラレ労働組合連合会（いきいき・むら基金）
・自然派くらぶ生協（子どもの夢基金）
・シャープ労働組合（パキスタン地震）
・首都圏コープ事業連合（ホワイトバンドの売上金寄付）

・生活協同組合ドゥコープ（組合員むけ年末募金）
・全国友の会（パキスタン地震）
・日本経済団体連合会（チャリティコンサートの開催）
・日本労働組合総連合会（連合）（「愛のカンパ」）
・UI ゼンセン同盟（児童教育活動・パキスタン地震）
・全日本自動車産業労働組合総連合（パキスタン地震）
○ステナイ生活への協力
・WE21 ジャパン各支部
・ガールスカウト各支部
・クラレ労働組合連合会
・自然派くらぶ生協
・シャープ労働組合
・生活協同組合ドゥコープ
・ダイエーユニオン
・友の会各支部
・ベターホーム協会
・モラロジー研究所
・UI ゼンセン同盟（「お宝キャンペーン」による協力）
○クラフトリンクへの協力
・UI ゼンセン同盟（定期大会での販売）
○その他
・UI ゼンセン同盟（「ボランタス」活動のスタディツアー受け入れ）

■会員・寄付者分布

県名	会員	寄付者
北海道	67	131
北海道計	67	131
青森県	5	25
岩手県	10	13
宮城県	32	44
秋田県	10	13
山形県	12	18
福島県	28	39
東北計	97	152
茨城県	37	42
栃木県	36	43
群馬県	24	25
埼玉県	135	162
千葉県	145	175
東京都	656	835
神奈川	296	417
関東計	1329	1699
山梨県	21	20
長野県	34	45
新潟県	29	40
富山県	14	12
石川県	26	14
福井県	6	1
甲信越計	130	132
岐阜県	14	22
静岡県	59	88
愛知県	107	128
三重県	30	47
東海計	210	285
滋賀県	14	24
京都府	51	77
大阪府	112	176
兵庫県	49	91

奈良県	17	39
和歌山	6	11
近畿計	249	418
鳥取県	4	18
島根県	2	8
岡山県	19	26
広島県	34	56
山口県	31	45
中国計	90	153
徳島県	12	16
香川県	4	10
愛媛県	18	23
高知県	5	10
四国計	39	59
福岡県	62	92
佐賀県	6	9
長崎県	12	29
熊本県	7	14
大分県	18	17
宮崎県	6	6
鹿児島	19	19
沖縄県	14	21
九州沖縄計	144	207
海外	31	5
海外計	31	5
総計	2386	3241

■執行部一覧（2006 年 3 月 31 日現在）

○代表理事　大橋正明

○理事

磯野昌子、岩城幸男、牛尾紀美子、坂口和隆、里見駿介、田尻佳史、辻村聖子、長畑誠、野口豊、吉田ユリノ

○監事

斉藤千宏、福澤郁文、丸島俊介

○評議員

伊東弘、池田恵子、内田和夫、梅澤健、大脇正昭、金子博、川口善行、河田裕司、川村宏義、萱野智篤、菊池宇光、北河原孝子、杉澤経子、田中浩平、筒井のり子、徳木久人、長沢恵美子、永井幸子、西野桂子、広瀬麗子、前澤哲爾、村山真弓、山崎みどり、渡辺元

○事務局長

坂口和隆

○事務局スタッフ

秋庭智也、植田貴子、内山智子、小嶋淳史（バングラデシュ駐在員）、勝井裕美、小松豊明（ネパール駐在員）、白幡利雄、杉山和明、鈴木悦子、筒井哲朗、中村怜奈、中森あゆみ、藤岡恵美子（バングラデシュ駐在員）、藤崎文子（ネパール駐在員）

■協力団体・委員会等一覧（2005 年度）

国際協力 NGO センター（JANIC）（副理事長）
市民コンピュータコミュニケーション研究会（JCAFE）（理事）
日本 NPO センター（評議員）
アトム通貨実行委員会（委員）
シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会（会員）
開発教育協会（会員）
JICA 南西アジア地域別支援委員会およびバングラデシュ小委員会（委員長）
JICA バングラデシュ PRDP 国内支援委員会（検討委員）
外務省対バングラデシュ国別援助計画策定東京タスクフォース（メンバー）
NGO - 労働組合国際協働フォーラム（委員）
中央共同募金会企画・推進委員会専門部会（委員）
株式会社電通 NPO 広報力向上委員会（委員）

2005 年度決算と 2006 年度収支予算

1.2005 年度決算

2005 年度の決算に係る会計監査は公認会計士佐藤泰久氏により 5 月 17 日に終了し、理事の業務執行の状況及び財産の状況についての監査は同日 3 名の監事により行われ、当会の会計報告書は 2006 年 3 月 31 日現在の財政状態及び同日をもって終わる期間の収支の状態を適正に表示している旨の報告を受けた。

2005 年度の収支状況は、収入合計 2 億 1,957 万円（前期比 2743 万円減）、支出合計 2 億 2,226 万円（前期比 641 万円減）となり結果 268 万円の赤字となった。なお主な内容は以下のとおり。

・会費収入は 2,332 万円（前期比 11 万円増）と前期並み。

・寄付金収入は 5,205 万円（前期比 941 万円増、22％増）と大幅に増加。伸びが著しい項目は、ステナイ生活の物品寄付収入 1,167 万円（前期比 442 万円増、61％増）、子どもの夢基金（前期比 314 万円増、322％増）など。この他ノースウェスト航空会社からのマイレージの寄付換算額 352 万円を計上している。

・緊急救援活動は、昨年 10 月に発生したパキスタン地震に対する募金収入が 765 万円にのぼり、活動費として現地 2 団体に対し 550 万円余を送金した。

・クラフトリンク活動は、収入 6000 万円（前期比 808 万円増、15％増、予算比 95％）と 2 期ぶりに 6 千万円台を回復したが、支出が 6448 万円（予算比 110％）と膨らんだため、448 万円の赤字となった。期末時に陳腐化した在庫商品を除却したこと（160 万円）や原価率が当初見込みより高くなったことなどがその要因に考えられる。

・知的貢献活動は、予算策定時に見込んでいた受託事業（約 750 万円）を受託できなかったことなどにより、活動規模は収入、支出とも予算額を大幅に下回る結果となった（全収入に占める割合 7.6％）。知的貢献での収支は 313 万円の黒字（前期比 427 万円減）となった。

・海外活動費は、予算比 82.4％（予算比 - バングラデシュ活動費 75.8％、ネパール活動費 96.2％、インド活動費 41.3％）、前期比 99.7％を支出した。バングラデシュ活動費の予算との差額は予算レートの円安設定などによるもの。

・国内活動費は、万博関連の支出が予算額を大幅に超過（予算比 143％）したが、部門全体ではほぼ予算額での支出におさまった。

・みらいファンドは、預託 14 件（620 万円）が満期をむかえ、うち 10 件（540 万円）が再預託となった。期末残高は 2,607 万円（預託分 1,560 万円、寄付分 1,047 万円）。

・自己財源率は前期比 2.1 ポイント減の 74.3％となった（緊急救援収入を除くと 73.3％）。

2.2006 年度収支予算

2006 年度収支予算案は収入合計、支出合計とも 2 億 1618 万円を計上し、前期予算比 1691 万円減、収入は前期実績比 484 万円増を見込んでいる。収支予算案の主な内容は以下のとおり。

・収入は、寄付金収入における一般寄付 770 万円増（前期予算比、以下同様）、ステナイ生活 400 万円増、マンスリーサポート 290 万円増、補助金収入 250 万円増などの増収を見込んでいる。一方減収分としては知的貢献収入 1725 万円減、JICA 連携収入 480 万円減など。

・人件費の配分について従来は管理職（事務局長、次長）分を各部門に配分していたが、2006 年度より本部管理費として処理するため、本部管理費全体で前期予算比 1095 万円増となっている。

・自己財源率は 74.9％。

監査報告書

2005 年度決算（2005.4.1 ～ 2006.3.31）
2006 年度収支予算（2006.4.1 ～ 2007.3.31）

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

（単位：円）

科　　目	2005 年度予算	2005 年度決算			2006 年度予算
		本　体	緊急救援	合　計	
Ⅰ．収入の部					
会費収入	25,500,000	23,324,460		23,324,460	23,500,000
寄付金収入	48,350,000	52,056,206		52,056,206	57,900,000
緊急救援収入	0		8,228,563	8,228,563	0
助成金収入	23,000,000	19,789,000		19,789,000	17,100,000
補助金収入	4,900,000	0		0	7,400,000
国際ボランティア貯金	4,000,000	2,140,555		2,140,555	4,000,000
JICA 連携収入	30,500,000	34,473,685		34,473,685	25,700,000
クラフトリンク活動収入	63,000,000	60,006,305		60,006,305	64,000,000
開発教育活動収入	4,140,000	2,164,150		2,164,150	4,130,000
スタディツアー	2,300,000	638,090		638,090	2,300,000
ユースフォーラム	740,000	606,380		606,380	500,000
キャラバン	600,000	512,950		512,950	1,000,000
車座トーク	100,000	11,000		11,000	−
開発教育教材	250,000	139,550		139,550	150,000
その他	150,000	256,180		256,180	180,000
知的貢献活動収入	29,650,000	16,763,713		16,763,713	12,400,000
雑収入	55,000	627,529		627,529	55,000
当期収入合計（A）	233,095,000	211,345,603	8,228,563	219,574,166	216,185,000
前期繰越収支差額	76,144,710	22,085,311	54,059,399	76,144,710	73,454,925
収入合計（B）	309,239,710	233,430,914	62,287,962	295,718,876	289,639,925
Ⅱ．支出の部					
海外活動費	99,885,100	82,300,347		82,300,347	88,597,000
バングラデシュ活動費	60,683,400	45,994,518		45,994,518	54,953,000
ネパール活動費	22,257,100	21,405,349		21,405,349	19,186,000
インド活動費	1,000,000	413,274		413,274	1,570,000
海外活動管理費	15,944,600	14,487,206		14,487,206	12,888,000
クラフトリンク活動費	63,000,000	64,489,056		64,489,056	64,000,000
売上原価	18,878,000	22,398,583		22,398,583	20,946,000
販売費	15,159,400	16,054,321		16,054,321	12,292,000
一般管理費	28,962,600	26,036,152		26,036,152	30,762,000
国内活動費	30,461,700	30,521,833		30,521,833	21,216,000
開発教育活動費	8,968,000	9,185,057		9,185,057	4,708,000
スタディツアー	1,408,000	562,304		562,304	1,408,000
ユースフォーラム	740,000	454,195		454,195	500,000
キャラバン	300,000	584,534		584,534	2,300,000
子ども企画	100,000	79,291		79,291	−
活動記録誌	1,200,000	268,250		268,250	−
愛知万博	5,000,000	7,134,465		7,134,465	−
車座トーク	100,000	12,560		12,560	−
開発教育教材	105,000	14,966		14,966	50,000
その他	15,000	74,492		74,492	450,000
地域活動費	100,000	37,610		37,610	100,000
国内活動管理費	21,393,700	21,299,166		21,299,166	16,408,000
広報活動費	13,425,200	12,430,715		12,430,715	14,587,000
広報費	2,887,900	2,907,864		2,907,864	3,644,000
広報活動管理費	10,537,300	9,522,851		9,522,851	10,943,000
本部管理費	9,918,200	9,783,186		9,783,186	20,735,000
緊急救援活動費	852,800		9,109,401	9,109,401	0
知的貢献活動支出	15,552,000	13,629,413		13,629,413	7,050,000
当期支出合計（C）	233,095,000	213,154,550	9,109,401	222,263,951	216,185,000
当期収支差額（A）−（C）	0	△ 1,808,947	△ 880,838	△ 2,689,785	0
次期繰越収支差額（B）−（C）	76,144,710	20,276,364	53,178,561	73,454,925	73,454,925

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

（2006 年 3 月 31 日現在）

（単位：円）

科　　目	本　体	緊急救援	みらい	合　計
Ⅰ資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	9,369,314	19,811,398		29,180,712
売掛金（注1）	7,757,423			7,757,423
有価証券		5,352,778		5,352,778
商品	14,159,257			14,159,257
貯蔵品	6,223,297			6,223,297
立替金	33,000			33,000
未収金	10,940,535			10,940,535
前払費用	546,338			546,338
仮払金	157,168			157,168
前払金	5,265,745			5,265,745
特別会計貸付		28,014,385		(28,014,385)
2. 固定資産				
什器備品	44,113			44,113
電話加入権	74,984			74,984
退職積立預貯金	6,664,464			6,664,464
敷金	581,040			581,040
基本金積立預金	609,464			609,464
みらいﾌｧﾝﾄﾞ預金	800,218		26,074,866	26,875,084
資産合計	63,226,360	53,178,561	26,074,866	114,465,402
Ⅱ負債の部				
1. 流動負債				
未払金	4,199,719			4,199,719
前受金	153,810			153,810
預り金	9,875			9,875
仮受金	65,600			65,600
預り社会保険料	18,148			18,148
預り源泉所得税	297,818			297,818
預り住民税	58,400			58,400
未払消費税	364,100			364,100
賞与引当金	2,467,376			2,467,376
特別会計借入	28,014,385			(28,014,385)
2. 固定負債				
みらいﾌｧﾝﾄﾞ預託金			15,600,000	15,600,000
退職給付引当金	6,691,301			6,691,301
負債合計	42,340,532	0	15,600,000	29,926,147
Ⅲ正味財産の部				
基本金	609,464			609,464
みらいﾌｧﾝﾄﾞ			10,474,866	10,474,866
次期繰越収支差額	20,276,364	53,178,561		73,454,925
（うち当期収支差額）	（△ 1,808,947）	（△ 880,838）		（△ 2,689,785）
正味財産合計	20,885,828	53,178,561	10,474,866	84,539,255
負債及び正味財産合計	63,226,360	53,178,561	26,074,866	114,465,402

（注記事項）

1.　売掛金の貸倒引当金は 301,399 円である。

特定非営利活動に係る事業会計財産目録

（2006 年 3 月 31 日現在）

（単位：円）

科目		金額		
Ⅰ資産の部				
1. 流動資産				
現金	現金手許有高	441,585		
預貯金	三菱東京 UFJ 銀行　高田馬場支店	13,185,726		
	郵便貯金　馬場下町郵便局	5,921,477		
	郵便振替口座　馬場下町郵便局	9,631,924		
売掛金（注1）	手工芸品関連	7,757,423		
有価証券	公社債投信　野村證券㈱	5,352,778		
商品		14,159,257		
貯蔵品	切手等	6,223,297		
立替金		33,000		
未収金	ブックオフ物流㈱	1,099,362		
	独立行政法人　国際協力機構	9,841,173		
前払費用	日新火災海上保険㈱	536,836		
	ファーストサーバー㈱	9,502		
前払金	STEP（2006 年度第 1 四半期）	1,424,829		
	COLI（2006 年度第 1 四半期）	3,294,916		
	㈱明石書店	546,000		
仮払金	出張仮払	157,168		
	流動資産合計		79,616,253	
2. 固定資産				
什器備品		44,113		
電話加入権		74,984		
退職積立預貯金	定額郵便貯金　馬場下町郵便局	2,085,574		
	三菱東京 UFJ 銀行　高田馬場支店	4,578,890		
敷金	(財) 早稲田奉仕園	581,040		
基本金積立預金	三菱東京 UFJ 銀行　高田馬場支店	609,464		
みらいファンド預金	三菱東京 UFJ 銀行　高田馬場支店	26,875,084		
	固定資産合計		34,849,149	
	資産合計			114,465,402
Ⅱ負債の部				
1. 流動負債				
未払金	NTT 東日本	26,770		
	(財) 早稲田奉仕園	56,203		
	藤ビルメンテナンス㈱	12,442		
	ヤマト運輸㈱	352,770		
	郵便局	5,005		
	㈱デザイン・エフエフ	31,500		
	ミナト印刷紙工㈱	2,323,252		
	オフィックス㈱	27,584		
	㈱セプテーニ	579,274		
	楽天㈱	85,845		
	富士ゼロックス㈱	21,000		
	社会保険事務所	509,524		
	東京労働局	168,550		
前受金	ダイエーユニオン	100,000		
	手工芸品関連	53,810		
預り金		9,875		
仮受金		65,600		
預り社会保険料		18,148		
預り源泉所得税		297,818		
預り住民税		58,400		
未払消費税		364,100		
賞与引当金		2,467,376		
	流動負債計		7,634,846	
2. 固定負債				
みらいファンド預託金		15,600,000		
退職給付引当金		6,691,301		
	固定負債計		22,291,301	
	負債合計			29,926,147
	正味財産			84,539,255
				114,465,402

（注記事項）

1.　売掛金の貸倒引当金は 301,399 円である。

（参考1）

クラフトリンク活動収支

（単位：千円）

	2005 年度予算	2005 年度決算	2006 年度予算
売上高	63,000	60,006	64,000
売上原価	18,878	22,399	20,946
期首商品棚卸高	17,354	17,354	14,159
当期商品仕入高	14,130	19,204	23,299
海外仕入	14,000	18,222	22,500
国内仕入	130	982	799
期末商品棚卸高	12,606	14,159	16,512
売上総利益	44,122	37,608	43,054
販売費及び一般管理費	44,122	42,090	43,054
販売費	15,159	16,054	12,292
一般管理費	28,963	26,036	30,762
営業利益	0	△ 4,483	0
営業外収益	0	8	0
営業外費用	0	0	0
経常利益	0	△ 4,475	0

（参考2）

みらいファンド残高増減

（単位：千円）

区　　分	期首残高	2005 年度の増減		期末残高
		減	増	
みらいファンド預託金	16,400	6,200	5,400	15,600
みらいファンド	10,475	0	0	10,475
合　　計	26,875	6,200	5,400	26,075

（参考3）

緊急救援活動収支

（単位：千円）

	インド洋大津波	パキスタン地震	計
Ⅰ．収入の部			
救援募金収入	572	7,650	8,222
報告会参加費	0	7	7
収入計①	572	7,656	8,229
Ⅱ．支出の部			
1．　直接費			
他団体送金	648	5,556	6,205
旅費交通費	630	210	840
諸雑費	58	47	105
臨時雇賃金	369	140	509
直接費計②	1,705	5,954	7,659
2．　間接費			
事務管理費	323	1,128	1,450
間接費計③	323	1,128	1,450
支出計④（②＋③）	2,028	7,081	9,109
収支差額（①－④）	△ 1,456	575	△ 881

（参考4）

収支計算書推移

（単位：千円）

	2003 年度	2004 年度	2005 年度
Ⅰ．収入の部			
会費収入	24,643	23,213	23,324
寄付金収入	39,466	42,645	52,056
補助金／助成金収入	63,561	58,152	56,403
クラフトリンク活動収入	61,547	51,925	60,006
開発教育活動収入	6,081	3,521	2,164
知的貢献活動収入	−	26,529	16,764
その他事業収入	206	946	628
緊急救援収入	373	40,076	8,229
当期収入合計（A）	195,877	247,007	219,574
前期繰越収支差額	52,254	57,814	76,145
収入合計（B）	248,131	304,821	295,719
Ⅱ．支出の部			
海外活動費	82,039	82,549	82,300
クラフトリンク活動費	62,590	52,660	64,489
国内活動費	34,969	33,857	30,522
広報活動費	−	−	12,431
本部管理費	10,289	8,866	9,783
知的貢献活動支出	−	19,117	13,629
その他事業支出	859	0	0
緊急救援活動費	1,870	31,626	9,109
当期支出合計（C）	192,617	228,676	222,264
当期収支差額（A)−(C）	3,260	18,331	△ 2,690
積立金取崩額（D）	2,300	0	0
次期繰越収支差額（B)−(C)+(D）	57,814	76,145	73,455

（参考5）

貸借対照表推移

（単位：千円）

	2003 年度	2004 年度	2005 年度
Ⅰ資産の部			
1. 流動資産	63,743	94,135	79,616
うち　商品	24,164	17,354	14,159
2. 固定資産	38,741	33,879	34,849
資産合計	102,484	128,015	114,465
Ⅱ負債の部			
1. 流動負債	9,683	18,717	7,635
2. 固定負債	24,003	22,069	22,291
うち　みらいファンド預託金	19,200	16,400	15,600
負債合計	33,686	40,786	29,926
Ⅲ正味財産の部			
基本金	609	609	609
みらいファンド	10,375	10,475	10,475
次期繰越収支差額	57,814	76,145	73,455
正味財産合計	68,798	87,229	84,539
負債及び正味財産合計	102,484	128,015	114,465

2006 年度 役員一覧

■代表理事

大橋正明	恵泉女学園大学 教員

■理事

磯野昌子	ボランティア
岩城幸男	アーンストアンドヤングトランザクションアドバイザリーサービス
牛尾紀美子	ボランティア／シャプラニール劇団
坂口和隆	シャプラニール＝市民による海外協力の会 事務局長
里見駿介	日本貿易振興機構（ジェトロ）投資アドバイザー
田尻佳史	特定非営利活動法人日本 NPO センター理事・事務局長
辻村聖子	前浦安市文化国際課長
長畑誠	元シャプラニールスタッフ、いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク（あいあいネット）
野口豊	シャプラニール・ユース・フォーラム 代表
吉田ユリノ	シャプラニールとちぎ架け橋の会 代表

■監事

斉藤千宏	日本福祉大学 教員
福澤郁文	株式会社デザイン FF 代表・グラフィックデザイナー
丸島俊介	弁護士

■評議員

伊東弘	海外協力センター福岡 事務局長
池田恵子	静岡大学 教員
内田和夫	嘉悦大学 教員
遠藤大輔	ユース・フォーラムボランティア
大脇正昭	長野市市民公益活動センター長
金子博	早稲田大学 キャリアセンター長
川口善行	東北公益文科大学 教員
川村宏義	あおもり開発教育協会研究会
萱野智篤	北星学園大学教員
菊池宇光	シャプラニール地域連絡会むさしの代表
北河原孝子	シャプラニール奈良連絡会代表
下澤嶽	ジュマ・ネット 代表
庄野真代	歌手、特定非営利活動法人国境なき楽団 代表
白土謙二	株式会社電通 プランニング・ディレクター
杉澤経子	東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター　プログラムコーディネーター
竹中千春	明治学院大学 国際学部教授
田中浩平	（財）千葉ＹＭＣＡ柏センター運営委員
筒井のり子	龍谷大学 教員、（特活）日本ボランティアコーディネータ協会 代表理事
徳木久人	会社員
永井幸子	UI ゼンセン同盟流通部会執行委員
長沢恵美子	経済団体職員
中田豊一	参加型開発研究所 代表
西野桂子	（特活）ジーエルエム・インスティチュート 代表理事
子島進	東洋大学国際地域学部助教授
広瀬麗子	（特活）ホールアース自然学校 代表
肥下彰男	シャプラニール南大阪前代表、大阪府立高校教員、地域の国際交流を進める南河内の会運営委員
前澤哲爾	全国フィルム・コミッション連絡協議会専務理事
山崎みどり	全国友の会中央部中央役員
渡辺元	（財）トヨタ財団 シニア・フェロー、（特活）市民社会創造ファンド 運営委員

主な掲載記事

ニッポン 人・脈・記　世界の貧しさと闘う ⑥

息長く自立を手助け

市民の結びつき 夢見て

ファズル・アベッドさん

朝日新聞 2005 年 10 月 20 日（木）夕刊

26

「シャプラニール 市民による海外協力の会」

支える 東京ボランティア奮闘記

日本から"前線活動"支援

途上国製品を適正価格で

毎日新聞　2005 年 10 月 26 日（水）都内版

バングラデシュ住民の自立へ

エコレジバッグで支援

バングラデシュの貧困地域で住民の自立などを支援しているNPO法人「シャプラニール＝市民による海外協力の会」（東京都）は、「エコレジバッグキャンペーン」を展開している。同法人が輸入、販売するバングラデシュ特産のジュート（黄麻）を使った「エコレジバッグ」（1400円）を買い物時に持ち歩いてもらい、レジ袋の使用量削減と貧困住民の自立支援につなげるのが狙いだ。

「レジ袋は、マズイ。」がキャッチフレーズ。温室効果ガスの削減を目指す京都議定書の発効を受け、企画された。エコレジバッグの利用を呼びかけるほか、新デザインも公募している。最優秀賞は商品化し、同賞受賞者をバングラデシュのエコレジバッグ製作現場の見学に招待。締め切りは7月31日。

申込書は同法人で配布、ホームページ（http://www.shaplaneer.org/eco/top.htm）からダウンロードできる。問い合わせは03・3202・7865へ。

朝日新聞 2005 年 6 月 2 日（木）生活欄

くらし 家庭

古本が善意に変身

中古書店に送付
売却代金を寄付

読賣新聞 2005 年 12 月 21 日（水）くらし欄

バングラデシュ支援NPO

特産・黄麻のマイバッグ

来月発売予定 レジ袋削減に一役

読賣新聞 2006 年 2 月 28 日（火）都内版